

主要著作目録

著書

- |            |         |       |          |
|------------|---------|-------|----------|
| 物質の哲学的概念   | (初版)    | 政経書院  | 一九三四年二月  |
|            | (改訂版)   | 白東書館  | 一九四八年二月  |
|            | (改訂新版)  | 青木書店  | 一九五八年一〇月 |
| 社会起源論      | (初版)    | 三笠書房  | 一九三六年九月  |
|            | (改題再版)  | 日本評論社 | 一九四九年二月  |
|            | (改訂文庫版) | 青木書店  | 一九五二年二月  |
| 資本論の弁証法的根拠 | (初版)    | 高桐書院  | 一九四八年四月  |
|            | (再版)    | 玄林書房  | 一九五〇年一月  |
|            | (改訂版)   | 有斐閣   | 一九五三年四月  |
| 社会と弁証法     | (初版)    | 玄林書房  | 一九四九年一月  |
|            | (改題増補版) | 法律文化社 | 一九五一年一〇月 |
| 戦後精神の探究    |         | 理論社   | 一九四九年九月  |
| 社会科学学      |         | 三和書房  | 一九五〇年九月  |

資本論の学問的構造

弘文堂

一九五一年六月

資本論への私の歩み

雄渾社

一九五四年九月

(初版)

現代思潮社

一九六〇年十一月

ヘーゲル哲学と資本論

未来社

一九五九年一〇月

経済哲学原理

日本評論新社

一九六二年二月

論 文 (\*印は著書に収録のもの)

\*社会の起源の問題

思想

一九三二年二月・十二月

\*フランス社会学の理論形態

社会学研究会編・文化社会学

一九三二年六月

\*三木哲学のフヘッショ的形態

批判

一九三二年九月

\*生物学におけるダーウイン的課題

唯物論研究

一九三三年三月・四月

\*歴史と自然弁証法

思想

一九三三年九月

\*物理学的認識の危機的意義

唯物論研究

一九三三年一〇月

\*端緒の問題―認識論としての資本論―

歴史科学

一九三三年十一月

\*道徳の党派性  
―働くもの食わざるべからず―

理想

一九三四年五月

\*認識の機関としての工場  
―史的唯物論に於ける技術の問題―

社会学評論

一九三四年七月

\*生産の判断断

唯物論研究

一九三四年八月

*労働過程の弁証法	社会	一九三四年一〇月
*人間労働の資本主義的自己疎外	社会	一九三五年三月
*資本発生の弁証法	経済評論	一九三五年八月
*マルクス主義	日本評論社・現代哲学辞典	一九三六年九月
*社会科学校	日本評論社・現代哲学辞典	一九三六年九月
*弁証法	日本評論社・現代哲学辞典	一九三六年九月
*非常時局と合理主義 —二・二六事件に關説して—	思想	一九三六年二月
*西田哲学を讀める	学生評論	一九三七年五月
把頭制度と農村との關係	北支那開發会社調査局への調査報告書	一九四二年三月
陽泉周辺土法炭坑の企業形態	北支那開發会社調査局への調査報告書	一九四三年三月
北支土着民族資本の産業資本への転化	北支那開發会社調査局への調査報告書	一九四四年二月
*虚無と実存の超克に關する第一章 —精神のこの病—	季刊理論	一九四八年二月
*現実的な学としての資本論	思想	一九四九年三月・五月
*唯物論と現代	京都大学学生部編・現代の世界観上	一九四九年四月
*告白の書 —時局の精神的断層—	展望	一九四九年五月
*哲学と社会科学(のち、「資本論の学問的構造」と改題)	筑摩書房・哲学講座第四卷	一九五〇年三月
*資本論の学的体系性	立命館経済学・一巻六号	一九五二年二月

\*資本論冒頭文節の体系的意味

立命館経済学・二卷一号

一九五三年二月

\*経 済 哲 学

立命館大学経済学会編・経済教程

一九五三年四月

\*市民社会における市民の人間の自己解放

—マルクスにおける自己疎外と具体的—

立命館大学人文科学研究所・紀要一号

一九五三年五月

\*諸商品集成の感性的直観

立命館経済学・二卷五号・六号  
三卷一号

一九五三年一〇月・十一月・  
一九五四年二月

\*賃労働者の向自有的論理構造

立命館経済学・三卷五号

一九五四年一〇月

\*四四年手稿断片(疎外された労働)におけるマルクスの哲学思想

立命館経済学・三卷六号・七号  
四卷一号・二号

一九五四年二月・  
一九五五年二月・四月・六月

\*歴史的現実と社会科学方法論

立命館大学人文科学研究所・紀要三号

一九五五年三月

労働市場における法的人格  
—ヘーゲル「法の哲学」に批判的に関連して—

立命館法学・一一号・一二号・一三号

一九五五年六月・  
八月・一〇月

\*マルクス主義経済哲学原理

立命館経済学・五卷五号・六号

一九五六年二月

『資本論』体系の図式的解明

立命館経済学・七卷六号  
八卷一号・二号

一九五九年二月・  
四月・七月

\*経済哲学のための一般的序説

立命館経済学・八卷五・六合併号

一九六〇年二月

社会科学における理論と検証  
—『資本論』にたいする一つのアプローチ—

思想

一九六〇年七月

\*賃労働者の範疇的把握

立命館経済学・九卷六号  
一〇卷一号・二号

一九六一年二月・  
四月・六月

\*マルクス主義経済哲学の成立の必然性

立命館経済学・一〇卷五・六合併号

一九六二年二月

経済学研究の出発点にある哲学的課題  
—四四年「手稿」におけるマルクス自身の  
思弁哲学についての分析的吟味として—

立命館経済学  
一一卷一・二合併号・三号

一九六二年六月・八月

評 論

\*チャーナリズムとアカデミズム

\*チャーナリズムの構造

\*哲学時評(一)

\*生物学とフハンズム

\*新聞的と雑誌的

\*哲学時評(二)

\*論壇時評

\*論壇から理論戦線へ

二度目の醜体

\*歴史哲学とストラテギー

\*チャーナリズム哲学の現状

\*時代に寄する年頭の言葉

\*この人格を感ぜよ  
—天野博士「道理の感覚」を讀みて—

\*恋愛と家庭と歴史

\*自然観の論理  
—映画「新しき土」に寄せて—

\*日本的なもの

—三枝博音著「日本の思想文化」を讀みて—

現代学生新聞

現代学生新聞

唯物論研究

東京大学新聞

唯物論研究

唯物論研究

何を讀むべきか

東京大学新聞

作品

東京大学新聞

夕刊大阪新聞

夕刊大阪新聞

京都大学新聞

神戸商大新聞

関西学院新聞

世界文化

一九三二年一〇月

一九三二年二月

一九三三年六月

一九三三年六月

一九三三年七月

一九三三年八月

一九三三年一〇月

一九三三年二月

一九三四年五月

一九三六年二月

一九三六年二月

一九三七年一月

一九三七年一月

一九三七年一月

一九三七年二月

一九三七年一〇月

*唯物論と主体性	作品	
*時局と哲学者 — 荒寥たる日本の思想界 —	京都大学新聞	一九三七年二月
*日本民族の個性化 — 世界的哲学の日本的創造のために —	関西学院新聞	一九三七年二月
*知性の「どん底」とインテリの自由	京都大学新聞	一九三七年二月
*農民の理性は狡猾でない — 映画「蒼氓」の意味 —	週刊新聞・土曜日	一九三八年一月
*人間学の自己矛盾的発展 — 樺俊雄編「人間学序説」 —	関西学院新聞	一九三八年二月
*技術論の現段階的課題 — その二つの偏向について —	神戸商大新聞	一九三八年四月
*苦悩の表現としての哲学 — 事変の思想的解決とは何か —	東京大学新聞	一九三八年五月
*政治的水準の低さ	夕刊京都新聞	一九四七年七月
*魂の転回は読書を超えたところで	日本読書新聞	一九五〇年一月
*闇夜に迎える『資本論』への途	京都大学新聞	一九五〇年二月
*新聞と大衆の常識	都新聞	一九五〇年一〇月
*私の『資本論』研究	出版月報	一九五一年六月
*戦後ということの二つの意味	都新聞	一九五一年六月
*警官と学生	立命館学園新聞	一九五二年五月
*政治的現実と理性	夕刊京都新聞	一九五二年九月

- \*ソビエト『経済学教科書』と『資本論』
- \*私の経済哲学の講義
- \*経済哲学への私の歩み
- \*私の講義を聴く学生のために
- \*経済哲学としての『資本論』

京都大学新聞 一九五五年六月  
 辻村一郎録・講義ノート  
 世界観の論理的基礎づけ 一九五九年一〇月  
 民科京都支部経済部会会報 一九五九年一〇月  
 立命館大学経済学会編・ 一九六〇年四月  
 経済学部<sup>に</sup>学ぶ人<sup>のため</sup>に  
 早稲田大学新聞 一九六〇年九月